

<巻頭言>



新年のご挨拶

廣瀬 利雄*

明けましておめでとうございます。いよいよ、21世紀の元旦を迎えました。心を引き締めてやって行きたいと覚悟を新たにしました。

ところで、2000年を顧み、2001年に思い馳せたいと思います。1999年の年頭において、日本大ダム会議として取り組みたい4項目を申し上げます。

- (1) ダム技術者の自由討論の場を提供すること。
- (2) 各種分科会は目途を明確にして運営されるべきこと。
- (3) 技術委員会に国際分科会を新設すること。
- (4) 各種ダム関連、法人、財団との連繫を図ること。

以上4項目のうち、(2)、(3)は2000年までに成果をみましたが、(1)、(4)については、2000年までに成果を挙げることはできませんでした。今後共努力して行きたいと考えております。

ところで、2000年において、実施された特筆すべき事項は次の通りです。

- (1) 定款を改訂しました。名前だけで、活動のなかった国内委員会規則を廃止しました。又、略称を、JANCOLDから、JCOLDに変えました。
- (2) ダム水源地整備国際セミナーを開催しました。ICOLD 総裁始め、北米、南米、ヨーロッパ、アジア各州の代表大ダム会議会長等をスピーカーとして招聘し、好評を得ました。
- (3) 第20回北京大会には日本から多数の方々が参加し、各委員会

* (株)日本大ダム会議 会長

で活躍しました。

特にコンクリート委員会においては、ダム新技術、CSGダムが正式に報告書に記述されることが決まりました。

以上の外、各関係者の努力、協力により、日本大ダム会議の活性化が図られつつあります。

21世紀においては、更に、世界を視野に入れた活動を行っていきたいと念願しております。

会員の皆様にとり、よい年でありますことを祈念し、新年の挨拶といたします。